

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

7月27日

第4聖日

3362号

「主の日の時期」

(Iテサロニ連続講演第16回)

聖言

兄弟たち。それがいつなのか、またどういつかについては、あなたがたは私たちのために書いてもらう必要がありません。主の日が夜中に盗人のように来るといふことは、あなたがた自身がよく承知しているからです。人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。テサロニケI 5:1~3

礼拝の恵み⑬ 第一章

第六部 礼拝のための力

「しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるのです。」(ヨハネ四ノ二三)
礼拝のための力は神の第三位、聖霊である。

第二節 聖霊のみわざ

(一) 創造との関係(創世一ノ二) ここが聖霊が最初にくるところである。形のない地のおもてを、神の霊がおおっていた。それから光があらわれてやみに代わり、こうして形のないむなしさのあとに、秩序と美とがあらわれている。だめになつてしまった、罪の深い、助けの無い罪人の、目ざめと確信と更生とにおける、聖霊のみわざの象徴として、なんと適切な絵であろう。

(二) 聖書との関係 我々が神の言葉の啓示を持っているのは、聖霊のおかげである。聖書に「なぜなら、預言は決して人間の意志によつてもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったからです。」(口ペテロ一ノ二二)。ダビデは「主の霊は、私を通して語り、そのことばは、わたしの舌の上に或る。」(口サムエル二三ノ二)。パウロは「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。」(口テモテ三ノ一六)。新約の霊界はキリストご自身によつて指摘されている。「聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいました。」(ヨハネ一四ノ二六)

(「礼拝」APギブス著)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年七月二〇日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「クリスチャンの望み」 (二テサロニ連続講演第一五回)

「眠った人々のことについては、兄弟たち、あなた方に知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあつて眠った人々をイエスといっしよに連れて来られるはずで。」(テサロニケ一四ノ一二、一四)

「私にとつては、生きることがキリスト、死ぬこともまた益です。」(ピリピ一ノ二一)

第一は復活の希望 私たちの喜びは何でしょうか。食べることでか。お金をためることですか。快楽を味わうことですか。これらは不安定なものです。病気になると思へられないし、砂漠の中ではお金を持つていても価値がありません。道徳を無視した快楽は良心を悲しめます。テサロニケの信者の喜びはキリストの死と復活の事実です。毎日の生活にも死と復活を経験していたのです。世の中の人は自由奔放に楽しそうに生きている。私はそれに引き換え喜びはないと嘆く人もいるかも知れません。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになつた神の御子を信じる信仰によるのです。」(ガラ二ノ二一) 世の楽しみ失せされ、人の誉れ消え行け。(賛五〇九) 信仰を第一にする生活は厳しいがそこに感謝と喜びと神の守りがあります。多くの若者は自分が好き勝手なことをしてからなぜ私はこのように不幸なのか。と自分の人生を恨みます。若さを悪の道に使わず、神を喜ばす道に使うことが大切です。若いといつても死はまだ先であるということとは間違ひです。もし、今、死んでもキリストはわたしを復活さ

せてくださると信じる人は幸いです。第二の希望は再臨です。

聖書には神様が雲の中に人々とお会いしました。雲は神様の臨在の証拠です。まぎれもない神様の現れの雲の中に復活のイエス様がおられ、クリスチャンを迎えに来てくださるのです。号令とは軍隊用語で命令です。ラッパとは大会の開始を告げます。一挙に引き上げられるのです。瞬く間に瞬時です。この世の舞台が反転するのです。いままで、この世で贅沢三昧をして暮らしていた人が外の暗やみに捨てられ、クリスチャンが主役になるのです。或る金持ちが毎日贅沢な暮らしをしていた。ところが彼の門前にラザロという全身皮膚病の乞食が座っていた。或る朝ラザロは死んでいました。誰に彼の死を悲しむものもいなかった。続いて金持ちも死んで豪華な葬式をした。金持ちは死後余りの暑さにのどが渴き上を見上げるとラザロがアブラハムの懷に抱かれていた。金持ちはラザロに水を持ってこさせてくださいと頼んだが、ラザロと金持ちのいる場所は深い越えがたい淵があるためわたれなと言われた。金持ちは生きている私の兄弟のところへラザロを送つて私のいる場所に来ないように知らせて欲しいと頼んだ。するとアブラハムは聖書がある。それを信じないなら死んだものがいつても信じないといいました。(ルカ一六ノ一九) 再臨を信じ、何時イエス様が来られても恥ずかしくないように、欲望から勝ち、自己の願いでなく、イエス様を喜んでくださる信仰生活をいたしましょう。

二〇一四年七月二三日午後七時 祈禱会 山本牧師

「偶像崇拜の罪」(エゼキエル連続一五回)

「その方は私に仰せられた。『人の子よ。あなたは彼らのしていることが見えるか。イスラエルの家は、私の聖所から遠く離れようとして、ここで大きな忌みきらうべきことをしているではないか。あなたはなおまた、大きな忌み嫌うべき事を見るだろ

う。』(エゼキエル八ノ五)

第六年の第六月の五日、最初の幻をみたのが第五年の四月五日であったから、それから一年二ヶ月後、エゼキエルは同じまぼろしを見、幻想の中でエルサレムに連れて行かれた。彼はそこで①エルサレムの指導者たちによって行なわれているあらゆる種類の偶像礼拝②偶像礼拝者たちに刑罰を下す六人の御使③エルサレムを焼こうとしている火を持った御使④町と神殿から立ち去られる主の栄光、これら四つの恐るべき幻を見せられた。キリスト教も使徒たちが聖霊に満たされて福音が全世界に伝わったが、教会ができ、富が増すに連れて、偶像化して他宗教と同じような罪が教会の中に蔓延する。具体的に教会の中に遊興や性的な罪や人間や自然界を礼拝するようになる。イエスを信じれば癒され、伴侶者が与えられ、幸福になる。そうでない。私に従う者は自分を捨て自分の十字架を負って私に従いなさい。私はキリストとともに十字架につけられたり。キリストより親兄弟を優先するものは私に相応しいものではありません。キリストを信じているゆえにすべてのものをちりあくたのようになした。キリストより大事なものはそれが偶像である。

仮庵聖会

日時 八月一五日(金)

場所 本部教会

テーマ 終末における再臨と聖潔

午前一〇時「終末の前兆」(マタイ二四)

午後 二時「聖霊の満たし」(マタイ二五)

午後 七時「再臨の前に建つ教会」(マタイ二五) 西田牧師

食事代 昼と夕 千円

山本牧師

足達牧師

八月聖成基督教団本部行事計画

一日(金) 月一回の楽しい祈りの集い 午後一時

三日(日) 役員会 礼拝後

五日(火) 納骨堂掃除 午前一〇時

一五日(金) 仮庵聖会 朝、昼、夕

一九日(火) 大日丘集会 午後四時

二六日(火) 兵庫リバイバル牧師会 午後一時

二八日(木) 榎原家集会 午後二時

※ 会計役員 山村姉 榎原姉 庄司姉

八月召天会員

二日 中野澤 博兄 一〇周

十一日 早瀬 初代姉 一八周

十一日 早瀬 潔兄 九〇周

十二日 山本 広吉兄 三五周

十二日 諸岡 花恵姉 二一周

十四日 早瀬 和恵姉 七五周

十四日 中島浅太郎兄 六九周

十五日 兼田 ハル姉 二二周

十六日 田村利加子姉 三二周

十九日 尾田 京子姉 七三周

二二日 白数 圭助兄 三三周

二二日 濱田 ミフミ姉 八周

二三日 後藤 好枝姉 九周

二四日 北田アヤコ姉 百一〇周

二五日 片山 忠男兄 三四周

二六日 樋口 晴恵姉 一九周